

1. 授業のねらい・概要

近年、欧州連合（EU）の動向が注目されている。加盟国が28カ国にまで拡大した存在感、長年の政治的信頼関係、単一通貨ユーロの重み、人権や民主主義が根付く市民社会の影響等、EUは国際政治・経済のリーダーの一角を担っているのは言うまでもない。他方、EUは負の影響も世界に及ぼしている。ギリシャが発端となった欧州債務危機はユーロ存続に影を落とした。また、EUの深化により、主要国は大量の移民や難民を受け入れざるを得ず、最悪の場合はテロ事件に繋がるような社会的摩擦が発生している。そのようなEUに嫌悪感を抱き、ついに、イギリスが2016年6月の国民投票でEU離脱という選択に至ったことを受け、各国でEUに反発する動きも起きており、その分断の可能性すら語られるようになった。本講義では、そうしたEUの過去、現在、未来を解き明かすために知っておくべき基礎知識を提供する。また、イギリスの離脱問題を含め、EUが直面する「国家」のあり方は勿論、欧州市民がEUをどのように捉えているのか、そもそもEU加盟にはどのようなメリット・デメリットがあるのか等の視点も踏まえていく。

2. 授業の進め方

学生諸君が興味を持ってくれるような講義とするべく、映像視聴を取り入れたり、担当教員の実務・海外経験を話に交えたりする等の工夫を凝らす。さらに、より主体的な姿勢がより良い理解に繋がるので、日頃から、メディアで世界の経済・社会情勢をフォローしておくことを強く薦める。また、数回、受講生に小課題を課すことで、理解度を確認することとしたい。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. EUの通貨統合②（ギリシャ危機）
2. EUの概要と活動内容①（目的・経緯）	10. EUと各国との関係
3. EUの概要と活動内容②（仕組み・加盟方法）	11. イギリスのEU離脱①（国民投票の経緯）
4. EUの概要と活動内容③（条約）	12. イギリスのEU離脱②（今後の展望）
5. EUの概要と活動内容④（加盟国）	13. イギリスのEU離脱③（欧州市民の声）
6. DVD視聴①（ベルリンの壁の崩壊）	14. DVD視聴②（鉄の女の素顔）
7. EUの概要と活動内容⑤（権限・法体系）	15. 本講義の総括
8. EUの通貨統合①（ユーロの現状と問題点）	

4. 到達目標

歴史、経済、社会等の観点から、EUの動向を理解することに留まらず、その世界的な位置付けも確認し、グローバル化の下での国際社会を捉える複眼的思考を養うことを目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

教科書の事前熟読（30～40分程度）。

6. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）及び期末試験（70%）にて、総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

教科書は、欧州連合研究会（著）『いまこそ知りたいEU』（水王舎、1200円＋税）を用いるので、受講生は必ず購入すること。そのほか、補足資料を随時配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介していく。

8. 受講上の留意事項

履修条件は特になし。講義中は、私語は慎み、解説を聞くだけでなく、補足情報もノートすること。平常点が著しく悪い場合は、期末試験を受験できないことがある。また、留学生には、経済学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。